「働く」とは、人を助けることだと私は思います。この場合の人には将来の自分自身も含まれます。

企業で働けば、給料がもらえます。それで家族の生活が成り立ちます。これは直接的に人を助けている場合です。しかし、そこにはもっと大きな価値があります。私たちは仕事の中にやりがいや誇りを感じます。そして、その積極的な気持ちがさらに専門的な知識を蓄えたり、技術を磨いたりすることにつながります。その専門性は将来の自分が進むべき道を切り開くきっかけになるし、社会貢献にもなります。

このように「働く」ことは誰かを助けることだからこそ価値が生まれます。私も将来は誰かのために役立つ仕事をしたいです。

私のパソコンを使うことが好きです。時々祖父母に頼まれて親戚にメールを出したり、近所である集会の案内状をパソコンで作ってあげたりします。

そういう作業をしながら、私は情報格差（デジタルデバイド）を実感します。高齢社会の進行で、情報通信に詳しい若者と苦手な高齢者の間で、情報に関する知識や技術の差がますます広がっているようです。

私は高校で簿記やマナーなどビジネスの専門性を身につけたいです。そして、同時にパソコンの技術を上達させて、近所の高齢の人たちが簿記や会計、インターネットなどの情報通信で困ったときには自分から進んで助けてあげたいです。